

ひとりひとりのしあわせと、
生きる喜びを、いのちの輝きを
ささえたい。

きらめき

VOL. 76

大牟田市 介護支援専門員 手引書(仮)作成中!!

現在、令和4年3月の発刊を目指して「大牟田市 介護支援専門員 手引書(仮)」を作成しています。

「手引書って何？」と思われる会員の方もいらっしゃると思いますので、経過をご報告します。

「大牟田市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例」及び、「大牟田市指定介護予防支援等の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例」で定める基本方針を順守し、介護支援専門員がケアマネジメントの理解を深め、その標準化を図ることを目的として、保険者・介護支援専門員が協働で手引書を作成し、介護支援専門員の役割や業務についての共通理解につなげていこうとの主旨になっています。

今年6月に手引書作成のための実行委員会が設置され、その中から4つのワーキンググループが編成されました。そして7月には、オリエンテーション（全体会議）がzoomで開催されました。会議では、手引書は3つの章で構成されるというイメージが提示されました。

○第1章 利用者との出会い 介護保険制度の目的・基本理念／介護支援専門員の業務内容 等

○第2章 加算の考え方・解釈について

○第3章 地域包括ケアシステム 社会資源の活用・大牟田にある社会資源 等

この3章を4つのワーキンググループで担当する事になりました。8月～10月の間は、各グループでzoom会議を開催し、どのような内容にするのかを検討していきました。そして、各グループの進捗状況を確認するために、10月27日に2回目の全体会議がzoomで開催されました。その中で、再度手引書の内容の検討を行いました。手引書は、“ケアマネジメント手法の標準化を図り、新人ケアマネからベテランケアマネまで使えるようにしたい”、“参考に出来る事例や社会資源を載せたい”等の意見が出されました。それを踏まえて内容を次のように再構築しました。

○第1章 ケアマネジメントとは アセスメント・ケアプラン作成・モニタリング・記録 等

○第2章 地域包括ケアシステム

○第3章 法令順守の必要性 加算の考え方・解釈について

○第4章 資料 フェイスシート・第1表～第3表・担当者会議の要点・課題整理総括表 等

○第5章 ケアプラン点検支援マニュアル マニュアルの活用法・給付管理業務 等

※今後、内容が変更になる可能性があります。

今後は更に各章の内容をワーキンググループで見直して練り上げていく作業になっていきます。3月の発刊まであまり時間はありませんが、会員の皆さんのお役に立てる手引書にしたいとワーキンググループ一同、頑張っていますのでご期待下さい!!



令和3年度 多職種連携推進のための意見交換会が開催されました！

当協議会では、医療・介護・地域との連携を深める為、多職種連携の意見交換会を毎年行っています。昨年は、「新型コロナウイルス感染症対応を振り返って」と題して、施設内でクラスターが発生した際の対応等について学ぶ機会がありましたが、まだ記憶に新しい方もおられるかと思います。今年度も昨年に引き続き、会員の皆さんの関心が高い新型コロナウイルス感染症について意見交換会を行いました。

前半は、社会医療法人親仁会 米の山病院 医療安全推進室 染谷涼子氏より「新型コロナウイルス感染症の正しい知識と対応策」と題してご講演頂きました。染谷氏は、感染管理認定看護師の資格を持っておられ、色々な所で講演や研修を開催されているそうです。本講演では、まず新型コロナウイルス感染症の特徴を理解する事が対策の第一歩になる事から、改めて「新型コロナウイルス感染症とは何か？」についてお話を頂きました。新型コロナウイルス感染症の特徴が、発症する前から感染性があるということで、感染している事に気づかないまま他の人と交流し、感染させてしまう…それが新型コロナウイルス感染症の蔓延した理由の一つだったそうです。また新型コロナウイルス感染症は、飛沫感染・接触感染で感染が広がっていくので、この感染経路を断つことで感染を防ぐ事が出来るとの事でした。私たちケアマネジャーは業務上、不特定多数の方と接する機会が多いため、感染しないために出来ることという話はとても参考になりました。簡単にまとめますと…

○手洗いなどの手指衛生…手洗いや手指消毒を行うことで、付着した微生物を出来る限り減らす。

他の人と共有して使用する物や誰でもよく触れる物はこまめに清掃する。

○咳エチケットの徹底…咳・くしゃみが出る時は、マスクを着ける。しかし、正しく着けないと意味がない。マスクの表面を触らない。あごと鼻までしっかりと隠す。フェイスシールド・マウスシールドはマスクと併用して使わないと効果がない。単独で使うのは危険。

○新型コロナウイルスワクチンの接種…発症を予防する高い効果がある。2回目接種後、6ヶ月の発症予防効果があると言われている。ブースター接種（3回目）の効果は検証中であるが、早ければ日本では12月から医療従事者から接種が始まる予定。副反応についても色々な情報が出ているが、誤情報に惑わされずに正しい情報を見極める事が重要である。

その他にも、症状がなくても出勤前や就業前に体温測定を行い、職場での体調の確認（ルーチン業務にせずずっと続けていく）。長時間の時間外労働を控える（過労で免疫力が低下するため、健康状態を保つ）。十分な栄養と睡眠をとるように心がける（感染症以外の病気を防ぐ事にもつながる）などの話がありました。「明日でもいいものは明日に回し、無理をしないように心がけています。体調管理も仕事のうちです」という染谷氏の言葉に、日頃の業務の見直しが必要だと感じました。

意見交換会の後半は、グループに分かれて、①新型コロナウイルス感染症に対する職場の現状や悩み ②新型コロナウイルス感染症対策の効果的なアイデア ③講師の染谷氏への質問 について話し合いを行いました。紙面の都合上、③の質疑応答部分を少し紹介します。

○感染者が減ってきているが、何が理由？

→ワクチン接種がすすんでいる事が要因であると思う。またウイルスの力が弱ってきており、デルタ株以降の変異型ウイルスが日本では広がっていない事も一因ではないかと思われる。

○職場の公用車の消毒は、塩素系でないとだめ？

→ アルコール消毒で十分効果がある。

○入院・入所前のPCR検査の結果の有効期間は？

→ 潜伏期間を考えると二週間程度。

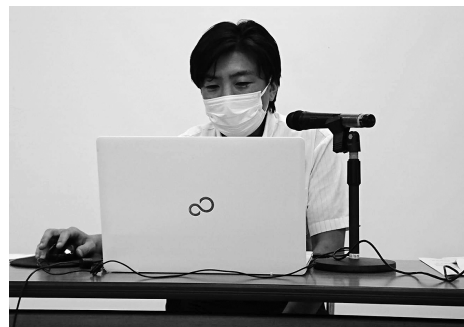
最後に当協議会、情報交流事業部会の松下部会長より「新型コロナウイルス感染症については、はっきり分かっていない事が多く、これから解明されていく事もあるかと思います。専門家の方は『第六波は必ずきます』とされていますので、今日の話を踏まえて対応・対策をとっていきたい。」との挨拶がありました。新型コロナウイルス感染症の感染状況はやや落ち着いてきていますが、これからの時期は、インフルエンザの流行する時期でもあります。油断せずにしっかり感染症対策を整えていきましょう。



基礎研修③が開催されました。

令和3年9月24日(金)にリモート研修がありました。講師に久留米大学の島崎剛氏をお迎えし、「家族システムの理解と活用」という題材で講義を行って頂きました。

家族を取り巻く諸問題として、ダブルケアラー、ヤングケアラー、8050問題の説明がありました。(ダブルケアラー：育児と介護の両方を担う・ヤングケアラー：家族のケアを担う子ども、若者たち・8050問題：80代の親がひきこもりまたは無職の状態にある50代の子の生活を支えている) 家族環境が多様化しており、介護以外にも様々な課題がある中でケアマネジャーとしてどのように関わりを持っていけばいいのか、その関わり方を整理するツールとして、家族システムという考え方があるとの事でした。



私たちは、いろんな役割（顔、立場）を担いながら生きています。家族も同様で色々な家族の機能や役割があり、そこに介護の問題での身体的・精神的・社会的・経済的な負担が発生し葛藤の中で生活をされているということを改めて感じました。ご家族への関わり方で、支えることができるよう支援していきたいと思いました。難しかったですが、とても興味深い内容でした。

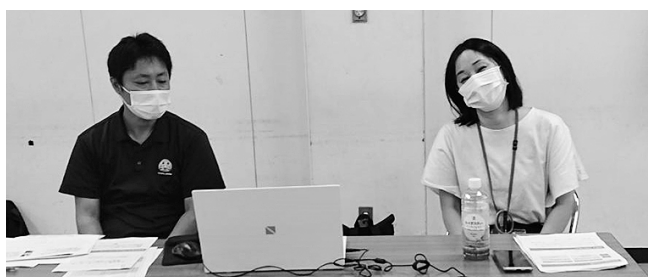
講義の詳しい内容はDVDの貸し出しがありますので、是非ご覧ください！

生活支援コーディネーターの概要及び役割について

基礎研修④では、手鎌地区地域包括支援センターの上石晶子氏、中央地区地域包括支援センターの由布貴裕氏をお招きして講義を行って頂きました。

研修は以下の流れで進められました。

- ①地域包括ケアシステムの概要と介護事業所・企業が協同し自立支援を行った事例の紹介
- ②自立支援とは何かを考えるグループワーク
- ③生活支援コーディネーターの役割の説明と大牟田市の特徴
- ④生活支援コーディネーターが介入し、自立支援を行うことができた事例



生活支援コーディネーターとは、「高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たすもの」とされています。第1層が市町村区域、第2層が日常生活圏域、第3層が個々の生活支援、介護予防サービスの事業主体とされており、大牟田市では、第1層の配置は今年度なく、第2層は各地域包括支援センターに配置されています。

研修で印象に残ったものとして、「孫の結婚式に行くなどの集大成の自立支援だけでなく、ご飯を食べるなどの日常的な自立支援もある。ケアマネジャーの存在自体が、利用者さんの安心感になり自立支援につながる」との説明がありました。自身の自立支援を振り返り、生活支援コーディネーターの役割と地域との連携を具体的に知ることができる、とても勉強になる研修会でした。

シリーズ・実践事例

本人・ご家族の間で、
意向に違いがあるケース。



【事例概要】

自宅で衰弱され入院していたAさん。

別居の長女がキーパーソンとなり特養入所まで支援を行うことになったが、自宅で同居していた次女は入所に反対。ご家族間で意向が分かれてしまっているケース。

【基本情報】

A氏 女性 86歳

要介護4

障害高齢者自立度：B2

認知症高齢者自立度：IIIa

既往歴：慢性心不全・脱水症・貧血・高血圧

ADL：移動 屋内は杖及び介助。

長距離、屋外は車イス。

食事 自立

排泄 リハビリパンツ

入浴 一部介助

IADL：日常生活の支援は同居の次女が支援。病院受診は長女が支援していた。

【支援経過】

R2年2月5日【相談】

D病院より連絡があり、退院を4月1日に予定しており、ご家族より居宅の担当を希望されているとの相談だった。長女より特養入

所の申し込みをされており、入所までの間ショートステイを利用したいとの意向。以前から包括も相談支援を行っているとのことで、後日包括にて長女と面会することとなる。

R2年2月7日【包括にて長女と面談】

A氏のこれまでの生活について話を伺う。去年の6月に下痢や脱水の症状あり、B病院に入院。その後回復され退院した。今年の7月に自宅を訪問すると布団で寝込んでおり、衰弱している様子だった。同居の次女による食事支援が十分にされていない様子だった。長女によりC病院へ入院。その後D病院へリハビリ目的で転院となった。

同居の次女のことについて伺うと、次女はA氏への支援や介助、病院への入院、退院後の介護サービスの利用、施設への入所等について、否定的な考えを持っており、その理由についても詳しくは分からないとのこと。次女は現在仕事をしていないため収入がない。A氏の通帳を次女が管理しているため、費用のことを心配しているのかもしれないとのこと。

A氏は転院当初は帰宅願望があったが、現在は落ち着かれている様子とのこと。

ショートの利用や施設入所について、長女

からA氏に確認して頂き、利用したいとの意向。

今後D病院にてA氏と面談予定となる。

R 2 年 2 月 14 日【D病院にてA氏と面談】

D病院にて、A氏、SW、ショートステイ担当同席で面談を行う。

A氏にショートステイの利用について伺うと、「娘たちの言うようにします。」との返答。

ADLについては改善傾向で、入院当初、歩行時膝折れあったが今はみられない。現在は歩行時軽介助、長距離は車イスを使用。物忘れあるが詳しい検査はされていない。

次女が病院に来られ、A氏の荷物を持ってくることもあったとのこと。

退院日に担当者会議の開催とショートステイ利用開始の予定となる。

R 2 年 3 月 1 日

【退院・ショートステイ利用開始】

施設にてA氏、長女、ショートステイ担当者の同席で担当者会議を行い、ショートステイの利用が開始となる。A氏も「よろしくお願いします。」と利用に合意される。毎月の病院受診や利用料金の支払いは長女が行う予定となる。

R 2 年 4 月 6 日【特養相談員より連絡】

入所に向けて事前に長女、次女の同意確認が必要とのこと。施設にて面談予定となる。

R 2 年 4 月 8 日【施設にて面談】

長女と次女に対して、特養相談員より特養入所について説明を行う。

説明途中から次女の表情が陰しくなり、「入所はさせたくない。家で一緒に暮らしたい。」と入所を反対される。一度ご姉妹で話し合って、意向を統一して頂くようお願いする。

R 2 年 4 月 20 日【包括にて長女と面談】

次女の現在の意向について伺うと、「母の最近の様子を話したら、ショートステイの利用については納得した様子だった。しかし特養入所については、はっきりとした返事はもらえず電話を切られた。もし母が自宅に戻っても次女による支援は難しい。また妹は、他人が家に来ることに抵抗感が強くあるので訪問介護や通所介護などの利用は難しい。」と、引き続き特養入所とその間のショートステイの利用継続を希望される。

次女は電話にほとんど出ないため、姉妹間での話し合いが難しい様子。

当面はショート利用を継続しながら、次女の意向確認を行う方向となる。

【考察】

A氏は娘たちの意向を尊重されており、ショートステイの利用や特養入所についても同意されている。またモニタリング時も利用継続を希望されていた。

長女は特養入所と入所までの間のショート

ステイを希望。

次女はショート利用については納得されたが、入所の意向に関しては不明な状態だった。

介護サービスの利用において、ご家族の意向はとても重要だが、そもそもなぜ次女が入所を拒否されたのか、ケアマネジャーとして十分なアセスメントができていなかったと感じた。

長女に関しては、面談を通して関係性は作れていたが、次女との関係性と比べるとバランスが取れていなかったかもしれないと感じた。長女がキーパーソンであり、長女と面談して調整するだけで事が済んでいたため、これまでは次女と話をする必要性があまりなかったからである。今回、事例をまとめながら、次女との面談の機会を設けて、「次女はどういう人なのか？これまでのA氏との生活は？次女自身の思いやA氏に対する気持ちは？これからの次女自身の生活は？」等の不

明点を明らかにしながら、次女の思いに対する理解を深める必要があったと気が付いた。また今後、長女と次女がそれぞれの思いに折り合いをつけるための場面設定をしなければならないだろうと感じた。

本人、ご家族の思いを正しく理解し、それぞれが納得して頂けるような支援はなかなか難しいと思うが、そこに少しでも近づけるような働きかけを行っていきたい。



大牟田市介護支援専門員連絡協議会 設立20周年記念事業 ^{フルレイ} blu-ray 絶賛販売中!!

令和2年1月25日の大牟田市介護支援専門員連絡協議会 設立20周年記念事業の全てをおさめた、blu-rayが絶賛発売中です。まだお買い求めになられていない方、買おうかどうか迷っている方、今すぐお申し込みを…!!

【お問い合わせ・お申込み】

事務局 月山さんまで…（☎41-2672）

※基礎研修①～⑤のDVDは100円で、レンタル中です!!

1枚 500円



／ へそくり隠すのに
ちようどいいー！

りしー随想

No.57



福岡県済生会ケアプランサービスなでしこの伊藤さんよりバトンを引き継ぎました、介護予防・相談センター延寿苑 石橋です。よろしくお願いします。

2年前の主任ケアマネ研修を共に乗り越えた伊藤さんからの依頼となれば！と引き継ぎましたが、何を書こうかと悩んだ末の…です。

相談センターに勤務し、4年と半年が経ちました。

昨年より新型コロナウイルス感染症の影響で、小中学校の総合学習である絵本教室や市民向けのもの忘れ予防・健診相談等の手伝いに出向くことがなくなり、子供達の笑顔や参加者から直接声を聞く機会がなく、寂しく感じています。

さて、周りの方に長年野菜作りや俳句、陶芸など続けている方や80代からパソコンを習い始められた方など活動的な方が多く、私も何かしなければと始めたことがあります。

昨年からプランターでゴーヤ栽培を始め、20cm・20本前後収穫でき、苦い苦い、うまいうまいと食べ、健康になった気分になりました。

昨年は、朝夕に水をやり、定期的な肥料・摘心・ネットに弦を這わせ、虫が来ず受粉の手伝いなどなど手をかけたので、今年はほったらかし作戦を行ったところ、害虫にやられ、3本のみの収穫で終了となりました。

何事も程よくが一番、と勉強になりました。

もう1つ。知人から頂いたメダカを育て、元気かと声を掛け、毎日癒されています。

どちらをメインに飼っているのかと思うほど、どんどんタニシが増え、水を浄化してくれています。自然の力ですね。

時間の経過と共にコロナ禍における生活様式にも慣れてきた頃ですが、みなさんは日々のストレスをどう解消されていますか？

拙い文章、最後まで読んで頂き有難うございました。

今回はココロよく受けて下さいました居宅介護支援事業所 そよかぜ 松本 泉さんにバトンを渡します。

○ 介護予防・
○ 相談センター 延寿苑

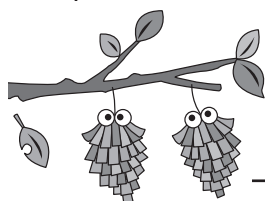
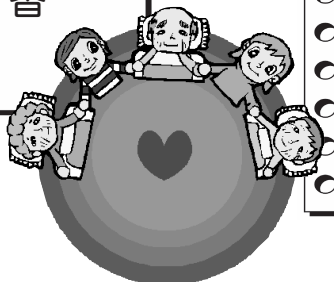
石橋 里香

次回は……

○ 居宅介護支援事業所
○ そよかぜ

松本 泉さん

です。



こう ぐう かん り すい しん しつ 口腔管理推進室のご案内

あなたがかわっている方の「お口」はいかがですか？

口腔には食べる・会話をする・笑顔をつくるなどの機能があり、生命を支えるだけでなく、コミュニケーションを図り、生きる喜びにつながる重要な部分です。「口の衛生」を保ち「安全においしく食べる」を支え、その人らしい生活が送れるように支援していきます。



口腔管理推進室の歯科衛生士が訪問いたします。
訪問はご希望の日時で調整いたします(無料)

口腔管理推進室の仕組み

まずはお気軽にお電話ください。
お口のお悩み何でもご相談ください。



無料

電話相談

歯科医院に行けない
方の歯科治療や口腔
ケアに関する相談を
受け付けています。



☎ 0944-88-8730

無料

訪問

歯科衛生士が訪問、
お口の状態をみて
相談にのります。



無料

歯科医院 との連携

訪問歯科診療をし
ている歯科医院を
紹介します。



有料

訪問 歯科診療

歯科医師等が訪問
診療を致します。



『口は健康の入り口』

- お口を清潔に保つことは、誤嚥性肺炎や
さまざまな病気の予防になります。
- お口の動きを保ち、よく噛んで食べると
栄養の吸収がよくなり免疫力がアップします。



受付時間に間に合わない方

メールでも受付可能です。
後日こちらから連絡させていただきます。



【メールアドレス】 koukukanri@outlook.jp



一般社団法人大牟田歯科医師会 口腔管理推進室

所在地: 〒836-0843 福岡県大牟田市不知火町2丁目149 大牟田歯科医師会館内

相談無料・秘密厳守

☎ 0944-88-8730

電話受付時間: 月～金 10:00～16:00(祝祭日は除く)

【編集後記】

あっという間に暑い夏が終わり、秋から冬の訪れを感じるようになった今日この頃、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

東京オリンピック・パラリンピック、開催については賛否両論あったかと思いますが、選手の頑張る姿や語る言葉は胸を打つものがありました。一生懸命に頑張ることって素晴らしいと改めて感じました。

そんななか、先日、「ケアマネジャーはらはら日記」岸山真理子著という本を読みました。内容の捉え方は人それぞれになるのではないかと思います。岸山さんの一生懸命にケアマネジャーという仕事を生きがいになされているお姿には、印象深いものがありました。

ケアマネジャーという仕事、忙殺される日々ですが、お互いに心身の健康に気を付けながら頑張っていきたいです。(釜飯だいすき)

編集・発行 大牟田市介護支援専門員連絡協議会 広報事業部会
事務局 大牟田市福祉課総合相談担当内 (TEL: 0944-41-2672 FAX: 0944-41-2662)
大牟田市介護支援専門員連絡協議会ホームページ <http://omuta-cm.net>